

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
1731	享保16	9/12～	竹本座	鬼一法眼三略巻 五段続	初段（政、兼、文）、道行（大和・喜＝友次郎）、二段（佐、政）、三段（大和、政）、四段（文、大和）、五段（喜）。 ※語り「御簾中の殿好は夜毎の揚弓丑の時の立願に矢筋を乱さず付込たくらまの牛若／御領人の殿定はしなへの太刀打やつと参つたはやり松の参詣はもふしきはくまのゝ鬼若」。 ※『外題年鑑・宝暦版』は「同（享保十六）年九月十三日」とする。 ※『餅月夜』に「鬼一法眼といふ浄るり大あたりして二三度も見物にまかりしを人の笑はれければ／割方に構やいたさぬ誘ひ給へひかれぬ時は鬼一毎日」という百子の狂歌がある。	なぎのまへ（新三郎）、平清もり・鬼三太（勘十郎）、鬼治郎・源ノうし若（助三郎）、鬼一法眼・鬼若弁慶（文三郎）、みなつるひめ（三右衛門）、鬼若うば（三郎兵へ）。
△ 1732	享保17		伊勢中之地蔵	（鬼一法眼三略巻）	※『伊勢歌舞伎年代記』の次の記録による。「享保十七壬子年 伊勢中之地蔵 浄瑠璃／外題 鬼一法眼三略巻／錦武事竹本和佐太夫／竹本姫太夫／竹本辰太夫／竹本大太夫」。	
△ 1733	享保18	7上旬	京都竹本座	（鬼一法眼）	※『外題年鑑・宝暦版』享保十八年四月八日「太平記／住吉巻 車還合戦桜」の条に、「和泉太夫又出座／…当六月卅日芝居類火仮屋芝居にて景事揃夫より上京鬼一法眼国性爺」とある。	
1756	宝暦6	6/1～	竹本座	鬼一法眼三略巻 五段続	（序 大和掾、中 森、段切 組）、二段目（道行 春・ツレ 森、口 染、段切 錦）、三段目（口 春、段切 政）、四段目（口 桐、段切 中、大和掾）、五段目（桐）。 ※角書「故竹本播磨少掾／十三回忌追善」。 ※語り「附り御れんちうのとのごのみはよごとのやうきううしの時のりうぐはんにやすじを乱さず付ケこんたくらまのうし若／井二御れうにんのとのさだめはしなへのたち打やつとまいつたはやり松のさんけい是もふしぎはくまのゝ鬼若」。 ※『外題年鑑・宝暦版』『古今外題年代記』に「播磨掾十三回忌追善」とある。また『浄瑠璃大系図』にもこのことに触れる。 ※『浄瑠璃大系図』の竹本政太夫、竹本中太夫の条にこの興行に触れるが、番付と矛盾しない。しかし竹本桐太夫の条には「四の中勤る是を名残にて東京へ赴く」とあり、竹本家太夫の条には「四段目の口五段目勤る」とあって、番付と矛盾する。 ※この再演の番付の役割と同じ太夫役割を付する七行正本（千葉胤男蔵）がある。	きよもり（彦三郎）、あすか（平治）、なぎのまへ・おきやう（小八）、鬼三太・べんけい（門三郎）、鬼次郎（源十郎）、みなづる（文吾）、うしわか（助三郎）、鬼一ほうげん（文三郎）。
△ 1767	明和4	12/15～	北堀江市ノ側芝居 豊竹此吉座	（鬼一法眼）	四ノ口（弦、槇）、四ノ詰（生駒）。 ※黒石陽子「早稲田大学演劇博物館所蔵黒木勘蔵旧蔵透写浄瑠璃番付について（二）（明和）」（『演劇研究』第二十号）、神津武男「竹本撰津大掾旧蔵人形浄瑠璃番付集について—成立と伝来、および細目—」（『国文学研究資料館紀要』第二十九号）に拠る。	鬼次郎（定七）、おきやう（武十郎）。
△ 1769	明和6	9/29～	道頓堀亀谷芝居 竹本義太夫座	（鬼一法眼三略巻）	福井之段（木々）、鏡井戸の段（口 弥、切 組）。 ※「増補浄瑠璃万歳」の包紙（天満屋源次郎新版）と二丁張りの「園生の竹本役割」に拠る。	

西暦	年	月	劇 場	上演外題	場 割 ・ 備 考	主な人形役割
△ 1774	安永3	9	豊竹此吉座	(鬼一法眼三略巻)	二段目(口加、切口武、奥氏)。 ※『近世邦楽年表 義太夫節之部』及び「芸大カード」に拠る。 ※黒石陽子「早稲田大学演劇博物館所蔵黒木勘蔵旧蔵透写浄瑠璃番付について(三)(安永~寛政)」(『演劇研究』第二十一号)に番付原本の報告あり。	うばあすか(門二)、吉岡鬼治郎(伊三郎)、弟鬼三太(音蔵)、おきやう(武十郎)、鬼わか丸(門三郎)。
1775	安永4	10	口ねさき新地芝居 竹本義太夫座	鬼一法眼	四ノ(口式、中宇、切染)。	吉岡鬼次郎(千四)、女房お京(勢蔵)。
1775	安永4	12/27~	吉田才治座	鬼一法眼	三段目(切政)	とらざう(才蔵)、ちゑ内(藤五郎)、みなつるひめ(武十郎)、鬼一法げん(才治)。
1778	安永7	11	北新地西ノ芝居 竹田万治郎座	鬼一法眼三略巻	二段目(口葉・中、切卯・組)。	ばら(門三郎)、鬼三太(虎蔵)、鬼治郎(喜十郎)、おきやう(文十郎)、おにわか(才治)。
△ 1778~ 1780頃	安永7~ 安永9頃		竹本政吉座カ	(鬼一)	三の切(政)。 ※『闇の磔』竹本政太夫条に「それより児源氏(安永九年)応神天皇(安永八年)などきつと三段目かたりと申て不足なき御声柄ことに近比一しほ御上達しかし上り目のしるしか余程小音になられたれどうまみの付た所が大將の草とそんじられますいや又千本四ツ目鬼一の三の切忠臣蔵九だん目なときついものでござります」とある。「千本四ツ目」以下は政太夫の得意の持場の列挙であって、ある特定の興行における出演をさすものではないとも考えられるが、一応右引用中の「近比」にも語られたものとしてここに置く。	
1782	天明2	12/15~	江戸 外記座	鬼一法眼	三段目(住)。 ※「浄るり一日替り出語り人形出遣イニ仕奉入御覧二候」(豊竹住太夫 番付口上)。「三弦 野沢八兵衛/野沢富八」(番付)。	(不明)
1783	天明3	1/2~	江戸 肥前座	鬼一法眼	三ノ切(御目見へ出かたり 下り 政=庄次郎)。	とら蔵(清次)、ちへ内(六治)、皆鶴姫(弥市)、鬼一(万吉)。
1781~ 1784	天明前半		いなり芝居 豊竹淀太夫座	鬼一法眼三略巻	四段目(口要、中絹、切信野)。 ※出演者により天明前半の可能性が強い。あるいは、さらに遡るか。	吉岡鬼次郎(伊三郎)。
△ 1785~ 1789	天明5~ 寛政初	2以後	江戸 結城座	(鬼一)	※『義太夫執心録』に「先ん頼母太夫、其後祖太夫、平松町結城の座元の時が初舞台也。目見へが鬼一の二ノ切迄、座元も掘出し物と悦び」とある。	
1787	天明7	8/9~	道とんぼり東芝居 竹本座	鬼一法眼三略巻 五段続	初段(大序重、中代々、切咲)、二段目(口氏、切雛、中)、三段目(口雛、切政)、四段目(口咲、切氏、染)、五段目(政)。 ※『外題年鑑・寛政版』には「鬼一法眼三略巻 同(天明七)年八月九日 麓太夫退座」とある。『浄瑠璃大系図』豊竹麓太夫の条には「同(天明七年)八月九日より鬼一法眼三略巻是を勤め退座有て暫らく休息致され」とある。	平のきよもり・うしわかまる(新吾)、鬼次郎(貫次郎)、お京・みなづるひめ(三吾)、鬼三太(岩五郎)、おにわかまる(才蔵)、鬼一ほうげん(才治)、うばあすか(冠蔵)。

西暦	年	月	劇 場	上演外題	場 割 ・ 備 考	主な人形役割
1789	寛政1	5/9~	北ほり江市のかは芝居 豊竹此母座	鬼一法眼三略巻 大序より二段目迄	初段(序重、中由良、切湊)、二段目(口百合、中内匠、切弥)。	きよもり(元五郎)、鬼次郎(右蔵)、おきやう(弥五郎)、鬼三太(庫十郎)、うばあすか(東十郎)、おにわかまる(才治)。
1792	寛政4	11/1~	道頓堀東芝居 竹本千太郎座	鬼一法眼三略巻	初段(大序家、中中、切口春、切氏)、二段目(口中、中和、切住)、三段目(口君、切政太夫事播磨大掾)。	鬼三太・奴ちゑ内(文蔵)、鬼次郎(岩五郎)、みなづるひめ(冠十郎)、平の清もり(定蔵)、おきやう(辰五郎)、とら蔵(千四)、うばあすか(磯五郎)、おにわかまる・鬼一法眼(才治)。
1807	文化4	8/13~	道頓堀角丸芝居	鬼一法眼三略巻 大序ヨリ三段目切まで	初段(大序都、中重、口陸、切中)、二段目(口志賀、中照、切氏)、三段目(口美代、同おく土佐、切政)。 ※別番付Bの太夫役割は、二段目(口志賀、おく陸、中照、切氏)、三段目(口美代、切政)。	みなづるひめ(辰蔵)、鬼次郎(鬼市)、うばあすか(栄蔵)、平のきよもり・おきやう(幸五郎)、鬼三太(冠四)、源の牛若まる・おにはか丸(三郎兵衛)、鬼一法眼(文蔵)。
△ 1811	文化8	9	御 靈	(鬼 一)	三。 ※石割松太郎『近世邦楽年表 義太夫節之部』書入れに「△九月(御靈)玉藻前ノ鬼一ノ三」とあるに拠る。	
1812	文化9	8/11~	六角堂境内芝居	鬼一法眼三略巻	三之切(出語り政=伝吉)。	みなづるひめ(辰造)、鬼一(音五郎)、ちゑ内(冠三)、うしわか(千四)。
1814	文化11	9/15~	ほり江あら木芝居	鬼一法眼三略巻 大序より三段目まで	初段(大序沢、中三津、口関、切頼)、二段目(口道、奥時、中出雲、切磯)、三段目(口錦、切政)。	喜三太・ち江内(虎造)、むはあすか(源三郎)、みな鶴ひめ・おきやう(伊三郎)、鬼次郎(辰五郎)、うし若(紋十郎)、鬼若丸・鬼法げん(豊造)。
1817	文化14	9/24~	いなり社内	鬼一法眼三略巻 大序より三だん目迄	初段(大序戸賀、序中泉、口十七、切むら)、二段目(口かなめ、中むら、切綱)、三段目(口重、切中)。 ※語り「おくさまのこのごのみは夜ごとの揚弓うしの時のりうぐはんに矢筋をみださず付こんだ鞍馬の牛若ノ御りやうにんのとのさだめはしなへの太刀打やつとまいつたはやり松のさんけいこれをふしぎは熊野の鬼若」。	みなづる姫(辰五郎)、鬼若(千次郎)、牛若(新二)、鬼一法眼(九孝)、奴ちへ内・喜三太(兵吉)、おきやう(千柳)、あすか(重三郎)、喜次郎(冠三)、きよもり(千四)。
1825	文政8	11/1~	座摩境内芝居	橋弁慶	五条のはしのだん(播磨大掾・島・三根=伝吉改名 文蔵・安次郎、牛若まる 藤井谷三郎、弁けい 吉田新吾 右は出がたり出づかひにて相つとめ申候)。 ※角書「けい事ノふし事」。 ※神津武男「竹本撰津大掾旧蔵人形浄瑠璃番付集について—成立と伝来、および細目の紹介—」(『国文学研究資料館紀要』第二十九)によれば、太夫三人目は、A番付は「竹本三根太夫」、B番付及びB番付の改修板は「竹本長門太夫」。	牛若まる(谷三郎)、弁けい(新吾)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
1828	文政11	4/16~	御霊社内	鬼一法眼三略巻 大序より 三段目まで	大序（口鶴、次要、おく佐代）、初段（口筈、おく岩、口越後、切頼）、式段目（口久、おく越後、中巴、切生駒、君）、三段目（口道、おく頼、切政）。 ※語り「熊野生れの稚子は兄弟の縁つきぬ順礼の御利生ふもんほん第廿後生の道に寺入之荒事／くらまそだちの若君は主従の縁つきぬ兵法のおくの手奇々妙々の天狗道に弟子入之赦」。	鬼若丸（金四）、奴虎蔵・うしわか丸・柳のまへ（小六）、皆鶴姫（国八）、鬼二郎（朝右衛門）、平ノ清もり・鬼三太・奴智恵内（東十郎）、鬼一法眼・うばあすか（金吾）。
1829	文政12	3	北堀江市の側芝居	鬼一法眼三略巻	菊畑のだん（口谷、切組）。 ※角書「鞍馬山に牛若丸／書写山に鬼若丸」。 ※版木を異にする別番付Bには「鬼一館のだん（口織、中谷、切組）」とある。	源うしわか丸（新吾）、みなつる姫（三吾）、やつこ智恵内（弥三郎）、鬼一法眼（千四）。
1830	天保1	9	道頓堀竹田芝居	鬼一法眼三略巻	三段目（口当賀、跡錦、切組）。 ※当興行の番付ABC三種ともに、三段目跡の「錦」に改刻跡が認められ、ABCに先だつ番付の存在が考えられる。	みなつる姫（国八）、奴智恵内（東十郎）、虎蔵（新吾）、鬼一法眼（千四）。
1831	天保2	1	堺大寺芝居	鬼一法眼三略巻 大序より 三段目迄	初（口当勢、切当磨、口弥宗、中当美、切三根）、式（口当美、切吾、口当賀、切時）、三（口当賀、切錦、切組）、四（口関、かけ合時・錦・当磨）。 ※角書「牛若丸／鬼若丸」。	奴知恵内・鬼三太・うばあすか（源十郎）、きよもり・鬼二郎（朝造）、牛若丸（口五郎）、奴とら蔵（大五郎）、みなつる姫（東三）、武蔵坊弁慶・鬼若丸（東十郎）、鬼一法眼（三吾）。
△ 1832	天保3	5上旬頃カ	伊勢中之地蔵	（鬼一法眼三略巻）	三段目（藍玉事組）。 ※『伊勢歌舞伎年代記』に「鬼一法眼三略巻 三段目／三勝・半七大和国茜染 上下／右一日替り也 組太夫」とある。	（不明）
1832	天保3	10/26~	いなり社内	鬼一法眼三略巻 大序より 三段目まで	大序（口佐渡、次鹿、中光、おく歳）、初段（中志賀、芝、口沢、切久）、式段目（口由良、おく湊、中谷、切長門）、三段目（口島、おく久、切住）。 ※角書「熊野産の稚児／鞍馬育の若君」。 ※語り「兄弟のゑんつきぬしゆん礼の御利生ふもんほん第廿後生の道に寺入の荒事／主従のゑんつきぬ兵法のおくの手奇々妙々の天狗道に弟子入の赦事」。 ※番付の一本（二代目鶴沢清八旧蔵）には、三味線欄の竹沢兵吉の上には「住太夫三味」、鶴沢勝右衛門の上には「長門太夫三味・此後に清七」の書込みがある。	やつこ智恵内・べんけい（金四）、鬼次郎（清七）、清もり・乳母あすか（門三）、鬼一法眼（門蔵）、お京（小辰）、虎蔵（岩五郎）、皆鶴ひめ（辰五良）。
1832	天保3	10	座摩境内	鬼一法眼三略巻	大序（口井尾、中理津、次和、おく内匠）、初段（口成駒、切頼母）、式段目（口信、次理、おく滝、口成駒、中盛、切錦）、三段目（口和、中頼、切内匠）。 ※語り「おくさまのとのごのみは夜ごとの揚弓うしの時のりうぐはんをみださず付こんだ鞍馬の牛若／御兩人のとのさだめはしなへの太刀打やつとまいつたはやり松のさんけいこれをふしぎは熊野の鬼若」。	鬼若丸・牛若丸（冠四）、鬼三太・あすか（喜十郎）、喜次郎女房（伊三郎）、喜次郎・平清もり・みなづる姫（東十郎）、鬼一法眼（冠蔵）。
1835	天保6	1	北ほり江市の側芝居	橋弁慶	大津のだん（滝）、五条の橋の段（シテ組・ツレ 靱）。 ※角書「大切／けい事」。 ※『浄瑠璃大系図』は初日を正月十一日とし、『近世邦楽年表 義太夫節之部』もこれに従う。	うしわか丸（国八）、鬼次郎女房（篤次郎）、べんけい（新吾）。

西暦	年	月	劇 場	上演外題	場 割 ・ 備 考	主な人形役割
1835	天保6	9/21~	北の新地芝居	鬼一法眼三略巻	菊畑の段（口 当磨、切 組）。	皆鶴ひめ（国八）、智恵内（東造）、うし若丸（一橋）、鬼一法眼（新吾）。
1836	天保7	1/2~	江戸薩摩座	鬼一法眼三略巻	三段目（口 程、切 染=下り 勇造）。	牛若丸（文三）、皆鶴姫（辰三郎）、清盛（新五郎）、ちゑ内（国五郎）、吉岡鬼一（兵吉）。
1838	天保9	4/26~	江戸結城座	鬼一法眼三略の巻	三段め（切 播磨=伊左衛門）。	知恵内（新十郎）、みな鶴姫（辰助）、牛若丸（伊三郎）、鬼一（千四）。
△ 1842	天保13	11	名古屋若宮	（橋弁慶）	（弁慶一房・牛若丸一里勢=才治・才造）。 ※素浄瑠璃興行。 ※『小寺玉晁記録』中の書写番付に拠る。	
△ 1843	天保14	閏9下旬	阿波富田秋田町行詰	（鬼 市）	三（染）。 ※『元木家記録』に拠る。	
1845	弘化2	11	兵庫兵庫芝居	鬼一法眼三略巻	けい事 橋弁慶（君登・多賀、人形出遣ひ二而相勤申候 吉田文三豊松国八）。 ※別番付bでは体裁、付け物、出演者に異同があり、「大切 鬼一法眼三略巻 けい事 橋弁慶」が「北条時頼記 鉢之木之段 源左衛門住家」（君ト・多賀）となる。	（不明）
1849	嘉永2	1	道頓堀竹田芝居	鬼一法眼三略巻	兵法のだん（口 喜代）、菊畑の段（切 染）。 ※『近世邦楽年表 義太夫節之部』は「正月十一日」とするが根拠不明。『染太夫一代記』「嘉永二年巳正月九日より、竹本樞太夫清水町西横堀文楽軒小屋において素浄瑠璃興行の事」（竹田芝居との掛け持ち出演に関する記事）によれば、二日初日か。	皆鶴姫（辰造）、奴虎そう（冠三）、奴智恵内（門十郎）、吉岡鬼一（門蔵）。
1849	嘉永2	3	京四條南側大芝居	鬼一法眼三略巻	清盛御殿之段（浪）、菊畑之だん（染）。	皆づる姫（辰造）、平ノ清盛（朝右衛門）、奴虎蔵（冠三）、智恵内（門十郎）、鬼一法眼（門蔵）。
1849	嘉永2	9/18~	兵庫兵庫定芝居	鬼一法眼三略巻	鬼一やかたの段（口 浪、切 越前大掾=吉左衛門）。 ※番付の日付は「九月吉日」であるが、『染太夫一代記』の「嘉永二己酉九月十六日出帆。…（翌々日）…このとき兵庫に芝居ありて、師匠越前大掾はじめ巴太夫、駒太夫出勤にて、則ちけふが初日なり。…」の記述により、「十八日」とみて改めた。	
1850	嘉永3	11/14~	堺さかい新地南芝居	鬼一	三だん目（小隅=正治郎）。 ※子供浄瑠璃興行。	
1853	嘉永6	10	道頓堀若太夫芝居	鬼一法眼三略巻	清盛館ノ段（口 多満=*寛十郎）、菊畑ノ段（切 長登=*清七）。 ※三味線は『弥太夫日記』に拠る。 ※『睦佳詩野志雄里』『弥太夫日記』などにより、番付の「丑」は嘉永六年と考えられる。長登太夫出勤の京四條北側芝居が延引した結果、長尾太夫の大坂初舞台がおくれ、番付には十月吉日となっているが、結局、十一月一日の初日となった。	鬼一法眼（才治）、奴智恵内（大造）、牛若丸（冠十郎）、みな鶴ひめ（国八）、清盛（三朝）。
1854	嘉永7	1/2~	道頓堀法善寺境内	橋弁慶	（大切 かけ合 弁慶一対馬・牛若一小鞠=清六・ツレ 徳太郎）。	

西暦	年	月	劇 場	上演外題	場 割 ・ 備 考	主な人形役割
1856	安政3	9/9～	いなり社内東	鬼一法眼三 略巻 つゞき四だ ん	六波羅のだん（小松、百合、喜志）、岡右衛門住家の段（口 曾根、次当勢、おく 田喜）、能登守詮議の段（中 佐賀、切 当久）、乳母飛鳥住家の段（口 音賀、おく むら）、書写山のだん（中 久、切 弥）、築地のたん（口 和国、おく 理）、大蔵卿館のだん（中 当久、切 湊）、兵法のだん（口 佐賀、おく 弥）、菊畑のたん（切 長登）。 ※角書「鞍馬育の若君／熊野産の稚児」。 ※語り「主従の縁つきぬ兵法のおくの手奇々妙々の天狗道に弟子入の赦事／兄弟の縁つきぬ順礼の御利生ふもんほん廿後生の道に寺入の荒事」。 ※古鞠太夫（山城少掾）の番付書込みに「文楽座此時稻荷社内旧地へ復帰ヲ許サレ芝居新築落成ナシ此度ヨリ興行ナス」「三代清七死去 団平長門之相三味線ト成」、また別番付（B）には「前ノ鬼一（A）ト同番附ナレ共三世長門太夫相三弦タル三代目清七通称カナヤト云フ此師死去致サレシニ依テ此芝居ヨリ二代豊沢団平通称清水町ト云フ替ツテ長門太夫ノ相三味ト成ル夫故名前ヲ入レシ番附也」とある。二代目鶴沢清八旧蔵番付の書込みに「（三代目清七）…安政三年丙辰九月廿三日に死去ス…此時役場三段目長登太夫なり」とある。	
1858	安政5	5/5～	京 四条道場北小 家	鬼 一	菊畑のたん（相馬＝吉之助）。 ※かけ糸浄瑠璃。	
△ 1859	安政6	9/13	紀州 道成寺門前小 家	（橋弁慶）	（玉助）。 ※友太郎事鶴沢玉助。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△ 1859	安政6	9/18	紀州 道成寺門前小 家	（はし弁 慶）	（カケ合）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
△ 1859	安政6	10/8	紀州 湯 浅	（橋弁慶）	（かけ合）。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
1864	元治1	5/25～	天満戎門	橋弁慶	五条のはしの段（鳴門・鶴尾）。 ※別番付Bでは「大切 橋弁慶 五条のはしの段」が「腰越状 泉ノ三郎館の段（文）」となる。	
1865	元治2	1	天満天神新門 角の小家	鬼一法眼三 略巻	（牛わかー越路・弁慶ー喜代＝鶴助・ツレ 吉三郎・広治・重吉）。 ※角書「牛若／弁慶」。	
1866	慶応2	7/15	江戸 米沢町芝居 結 城 座	橋弁慶	五条橋之段（カケ合 菊・織）。 ※番付の日付は「七月吉日より」であるが、絵本番付（板元小川半助正 清種画）の「慶応二年七月十五日より」に従って改めた。 ※絵本番付では、「大切所作事」として左の狂言を加える。「浄瑠璃御ひみき様よりの／御進めにしたがひ 拙手際紅葉粉色」「吉田国五郎 七変化宙乗り出遣ニて奉入御覧候 雷神 お七 吉三 とば糸座頭 弁慶 牛若／大津絵／早替り／国八 叶福助／富本豊前太夫連中／清元家内太夫連中／岸沢式佐連中」。	弁けい（国八）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
1866	慶応2	10/20~	稲荷社内東芝居	鬼一法眼三略巻 大序より三段目迄	大序 六婆羅御所のだん(咲馬、直、七、咲代、津瑠、左馬)、岡右衛門内の段(口 理久、奥 越路=*由治郎)、能登守詮義のだん(中 和、切 実)、書写山のだん(中 浪登、切 弥、湊)、兵法の段(口 其、奥 春)、菊畑のだん(切 染=叶)。 ※角書「鞍馬育ノ牛若丸ノ書写育の鬼若丸」。 ※番付の日付は「十月吉日より」であるが、番付書込みや『摂津大掾出演手控』の記述により改めた。 ※『摂津大掾出演手控』に越路太夫の役場として「岡右衛門内 口理太夫ノ奥越路太夫 由次郎ノ切加々見山奥庭 越路太夫ノ一日替り由次郎 吉治ノ此時書写山之段切湊太夫右替り相勤」とある。	鬼若丸・吉岡鬼一法眼(玉造)、柳のまへ・妻お京(玉蝶)、吉岡鬼治郎(徳三郎)、乳母飛鳥(小六)、皆つる姫(松江)、平ノ清盛(玉之助)、奴虎そう・源ノ牛若丸(玉三郎)、奴千恵内・吉岡鬼三太(喜十郎)。
1867	慶応3	5/5~	京 四条道場北ノ小家	鬼一法眼	菊畑ノ段(対馬=吉弥)。	
1868	明治1	10	京 和泉式部北向芝居	五条橋之段	(カケ合 牛若一絹・弁慶一鹿子=団七・団九郎)。 ※首振り芝居カ。 ※神津武男「辻町文庫浄瑠璃関係資料調査報告(後編)―稀書を中心にみる辻町文庫の資料的価値―」(『演劇研究』第三十一号)に拠る。	
1869	明治2	9/9~	京都 四条道場北ノ小家	鬼一法眼三略巻 大序より大切マテ	大序(住尾=庄二、此茂=竹造)、熊野井所ノ段(須戸=駒吉)、文藤次住家のたん(口 此茂=小時、中 津戸=庄二、切 文字=小熊)、福井の段(口 住尾=駒吉、奥 小賀=庄二)、伏見里之段(口 此茂=竹造、切 浜=喜代七)、書写山のだん(口 須戸=時助、中 織=団六、切 山四郎=兵吉)、兵法の段(紋=時造)、鬼一法眼やかたノ段(三光斎=庄次郎)、大蔵館常盤御前揚弓之だん(口 津=小兵、切 長尾=鱗糸)、五条橋之だん(弁けい=織・牛若=津=庄次郎・兵吉・団六・喜代七・時介・竹造・庄二)、堀川御所使者之だん(中 文字=小熊、切 津賀=豊吉)、大切 安宅関所 勤進帳之段(武蔵坊弁けい=山四郎・源ノ義経=紋・里ノ童=小賀・富樫左衛門=長尾・近習=津戸=庄次郎・ツレ 鱗糸・小兵・小時・駒吉)。	
1871	明治4	9	いなり文らく座	鬼一法眼三略巻 大序より菊畑の段まで	大序 六波羅のだん(梶登、う、鞠栄、梶代、住都、亀久、桎、九、春尾)、北条四郎館の段(口 春賀、次 三根、切 浪)、岡右衛門住家の段(口 豊、次 春戸、奥 中)、能登守詮義のだん(能登守=越路・瀬の尾=弥・本郷忠太夫=実・兄岡右衛門=梶・弟幸介=三根・女房おゆう=むら・侍当馬一町)、書写山のだん(中 浪、切 実、染)、築地の段(口 七太夫改 町、奥 中)、常盤御前揚弓の段(中 梶、越路)、勘解由切腹の段(切 越)、兵法のだん(口 春戸、奥 むら)、菊畑のだん(切 春)。 ※角書「鞍馬育の御曹司は源の牛若丸ノ書写育の荒法師は西塔の武蔵坊」。 ※九月廿七日ヨリ卅五日間。原作ノ一・二・三段目ニ六波羅・北条四郎館・岡右衛門住家・能登守詮議ノ各段ヲ加エルノハ安政三年九月いなり芝居デ上演ノ時カラデアル(『義太夫年表 明治篇』備考欄)。	乳母飛鳥(小玉)、お京(鹿造)、平相国清盛(玉之助)、奴智恵内・吉岡鬼三太(玉治)、奴虎蔵・源の牛若丸・吉岡鬼次郎(玉助)、鬼一法眼・児鬼若丸(玉造)・皆鶴ひめ(辰造)。

西暦	年	月	劇 場	上演外題	場 割 ・ 備 考	主な人形役割
1877	明治10	11	松嶋文楽座	鬼一法眼三略巻 大序より菊畑まで	大序 六波羅の段(福、津瑠、組栄、弥津、芳)、岡右衛門住家の段(中 越の、切 三根)、能登守詮義の段(能登守一組・瀬の尾七郎一弥・忠太夫一実・岡右衛門一津・弟幸介一春子・おゆう一三根・当馬一越の)、書写山の段(中 長子、切 津)、築地の段(口 袖、奥 実)、大蔵長成館の段(中 春子、切 梶)、兵法の段(口 袖、奥 組)、菊畑の段(切 越路)。 ※角書「鞍馬育の牛若丸／書写育の鬼若丸」。 ※十一月廿四日ヨリ十八日間(『義太夫年表 明治篇』備考欄)。	平の清盛・奴智恵内(玉治)、吉岡喜次郎(辰吉)、皆鶴姫(紋十郎)、児鬼若丸・奴虎蔵(玉助)、妻お京(東十郎)、乳母飛鳥(小玉)、吉岡鬼一法眼(玉造)。
1879	明治12	1/1~	京都道場演劇	鬼一法眼三略巻 五條橋の段	五條橋の段(源牛若丸一雛・武蔵坊弁慶一殿母=丑之助・新三郎・新治郎・浜吉・新之助)。	
1883	明治16	11	松嶋文楽座	鬼一法眼三略巻 大序より菊畑迄	大序 六波羅評定の段(弥野、市、越代、鷹、稲葉)、深草里太郎照光隠家の段(口 梶賀、中 成、切 氏)、能登守教経詮義の段(教経一浪・瀬尾一袖・前司一長登・太郎一氏・次郎一多門・おゆら一谷・当馬一富)、五條橋の段(弁慶一時・牛若丸一むら・ツレ 常子、武蔵坊弁慶 吉田玉造・御曹子牛若丸 吉田玉七 此所兩人出つかひにて相つとめ申候)、大倉長成卿館の段(中 谷、切 弥=*勝七)、平清盛館兵法の段(口 多門、奥 むら)、菊畑の段(切 染)。 ※角書「鞍馬育の御曹子は源の牛若丸／書写育の荒法師は西塔の武蔵坊」。 ※十一月十五(十七)日ヨリ十二月五日マデ廿三日間(『義太夫年表 明治篇』備考欄)。 ※『五條橋』の文章を一寸補足して、弁慶が七ツ道具で立合ひするやうに清水町さん(二世豊沢団平)が節付されたことがありました(『道八芸談』)。	吉岡鬼三太・奴智恵内(玉治)、妻お京(鹿造)、吉岡鬼次郎(亀松)、御曹子牛若丸(玉七)、皆つるひめ(紋十郎)、武蔵坊弁慶・虎蔵・源牛若丸(玉助)、平相国清盛(紋三郎)、吉岡鬼一法眼(玉造)。
1887	明治20	10	御霊文楽座	鬼一法眼三略巻 三段目	兵法の段(口 尾上、奥 呂)、菊畑の段(切 津)。 ※角書「鞍馬育 牛若丸／書写育 鬼若丸」。 ※十月十八(十六)日ヨリ十一月六日マデ十八日間(『義太夫年表 明治篇』備考欄)。	平清盛(玉治)、奴智恵内(玉五郎)、寅造・源牛若丸(玉七)、皆鶴姫(紋十郎)、鬼一法眼(玉造)。
1889	明治22	10	御霊文楽座	鬼一法眼三略巻 大序より五條橋の段まで	大序 六波羅御所評定の段(津葉芽、綾の、小菅、津満、品尾、呂 広、越戸)、深草の里太郎照住隠家の段(口 津和、中 巴勢、切 むら)、能登守教経詮義の段(能登守一路・瀬の尾一氏・前司照住一谷・太郎一綾・次郎一高尾・おゆう一九重・当馬一弥鳳)、播州書写山の段(中 文、次 さの、切 長尾)、鞍馬山の段(谷、此所出つかひにて御覧に入申候 吉田玉造 吉田玉七)、御築地の段(さの)、一条大蔵卿長成やかたの段(中 緑り、切 津)、太政入道清盛館兵法の段(口 高尾、奥 綾)、菊畑の段(切 越路)、五條橋の段(路、此所出つかひにて御覧に入申候 桐竹紋十郎 吉田玉七)。 ※角書「鞍馬育の御曹子は源の牛若丸／書写育の荒法師は西塔の武蔵坊」。 ※十月一日ヨリ二十日マデ二十日間(『義太夫年表 明治篇』備考欄)。	妻お京(玉治)、平相国清盛入道(栄造)、吉岡鬼三太(金之助)、吉岡鬼次郎・鬼若丸・源の牛若丸・奴虎蔵(玉七)、皆鶴姫・武蔵坊弁慶(紋十郎)、乳母あすか(玉亀)、僧正坊・鬼一法眼(玉造)。

西暦	年	月	劇 場	上演外題	場 割 ・ 備 考	主な人形役割
1894	明治27	11	御霊文楽座	鬼一法眼三略巻 大序より菊畑まで	大序 六波羅御所評定のだん（呂嶋、綾栄、綾登、谷栄、越江、綾免）、深草里岡右衛門住家の段（口 登勢、中 殿母、切 調）、能登守教経詮義の段（教経一路・瀬尾一むら・忠右衛門一谷・岡右衛門一調・幸介一巴勢・おゆら一鶴尾・当馬一呂嶋）、書写山鬼若丸乱行のだん（中 呂瀬、切 谷）、築地のだん（文）、大蔵三位長成館のだん（中 むら、切 綾、切 路）、兵法のだん（口 品尾、奥 さの）、菊畑のだん（切 呂）。 ※十一月十五日ヨリ十二月四日マデ廿日間（『義太夫年表 明治篇』備考欄）。	乳母飛鳥（玉治）、吉岡鬼次郎幸胤・奴智恵内実は喜三太清悦（金之助）、奴寅造実は牛若丸・妻お京（玉助）、皆鶴姫（紋十郎）、鬼若丸後に武蔵坊弁慶（卯三郎）、平相国清盛（玉朝）、吉岡鬼一法眼（玉造）。
1897	明治30	1/2～	稲 荷 座	鬼一法眼三略巻	五条橋のだん（御曹子牛若丸一菅・武蔵坊弁慶一雛・ツレ 一・源子、此所人形出つかひにて御覧に入申候）。 ※一月十二日ヨリ二月八日マデ皇太后崩御ノタメ音曲御停止休業。中狂言「鬼一法眼三略巻」を削り、建狂言「彦山権現誓助剣」の「毛谷村の段」以降を続けた別番付あり（『義太夫年表 明治篇』欄外記事・注追加）。	御曹子牛若丸（玉松）、武蔵坊弁慶（玉米）。
1904	明治37	11	御霊文楽座	鬼一法眼三略巻 大序より菊畑の段迄	大序 六波羅館のだん（隅和、津田、広見、文字子、いさ、静、須磨、宇久、広、南勢）、深草里岡右衛門住家のだん（口 越喜、中 司、切むら）、能登守教経詮義のだん（教経一文・忠太夫一時・瀬尾七郎一津ばめ・岡右衛門一源子・幸介一鑠・おゆう一さ路・兵馬一常子）、書写山のだん（中 源子、切 文）、鞍馬山のだん（叶）、築地のだん（津ばめ）、大蔵三位長成卿館の段（中 時、切 越路）、兵法のだん（口 鑠＝*竹三郎、奥 染）、菊畑のだん（切 津＝猿糸）。 ※角書「鞍馬育の御曹子は源の牛若丸／書写育の荒法師は西塔の武蔵坊」。 ※十一月一日ヨリ十六日マデ十六日間（『義太夫年表 明治篇』備考欄）。	吉岡鬼一法眼（紋十郎）、皆鶴姫（玉助）、平相国清盛・乳母飛鳥・奴智恵内実は吉岡鬼三太（助太郎）、妻お京（栄三）、奴虎造実は牛若丸・吉岡鬼次郎（多為蔵）、鬼若丸・僧正坊（玉治）。
△ 1907	明治40	9/2・3	京都南 座	（鬼一法眼三略巻）	菊畑（さの・南勢・叶・米＝団七・実次郎・勝太郎）。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	（不明）
1908	明治41	2/1～	堀 江 座	橋弁慶	五条橋のだん（牛若一鑠・弁慶一静・ツレ 組栄・薫・小国、此所人形出遣いにて御覧に入申候）。	武蔵坊弁慶（紋三）、源牛若丸（玉市）。
1912	明治45	4/21～	近 松 座	五月人形橋弁慶	五条橋のだん（牛若丸一角・弁慶一組栄・ツレ 薫・隅の・三・社）。	源牛若丸（政亀）、武蔵坊弁慶（玉造）。
1917	大正6	11/23～	京都竹 豊 座	鬼一法眼三略巻	橋弁慶のだん（春雄・春美・松重・三島／時次）。 ※十二月十七日迄（『義太夫年表 大正篇』備考欄）。	牛若丸（紋太郎）、武蔵坊弁慶（玉松）。
1919	大正8	5/8～	京都竹 豊 座	鬼一法眼三略巻	五条橋のだん（牛若一円・弁慶一南登・ツレ 千嶋＝*喜八郎）。	武蔵坊弁慶（新三郎）、源牛若丸（扇太郎）。
1920	大正9	1/14～	京都竹 豊 座	鬼一法眼三略巻	五条橋のだん（牛若一三好・弁慶一南登）	武蔵坊弁慶（新三郎）、源牛若丸（兵次）。
1922	大正11	6/10～	御霊文楽座	鬼一法眼三略巻	五条橋のだん（牛若丸一葉・弁慶一静・ツレ 和泉・越登＝*吉兵衛）。 ※二十二日間（『義太夫年表 大正篇』備考欄）。	牛若丸（栄三）、武蔵坊弁慶（文三）。

西暦	年	月	劇 場	上演外題	場 割 ・ 備 考	主な人形役割
△ 1923	大正12	7/8~	東京 下谷 竹林俱樂部	(橋弁慶)	(津賀・湊・米=猿之助・仙八・桑造)。 ※「東都五十義会」発会式。素浄瑠璃。 ※『浄瑠璃雑誌』第二二三号(大正十二年九月)に拠る。	
1931	昭和6	4/1~26	四ツ橋文楽座	鬼一法眼三 略巻	五條橋の段(牛若丸一南部・ツレ 源路・千駒/長子=吉弥・ツレ 歌 助/八助・寛市・吉左/喜代之助・弁慶一つばめ・ツレ 辰・陸路/播 路=広助・ツレ 友之助/友平・猿二郎・友二)。 ※番付には右の外題、役割が載るが、筋書では「義経千本桜 道行」 に変更。 ※三味線役割及び千種楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	牛若丸(紋十郎)、武蔵坊弁慶(政亀)。
1934	昭和9	7/24~26	東京 歌舞伎座	鬼一法眼三 略巻	五條橋の段(牛若丸一南部・隅栄・宮=吉弥・吉左・団二郎・市松、 弁慶一和泉・播路・津の子=芳之助・友衛門・友三郎・友花)。	牛若丸(紋十郎)、弁慶(玉幸)。
1934	昭和9	11/15~	戒 座	(鬼一法眼 三略巻)	橋弁慶の段(牛若丸一敷島・弁慶一滝・ツレ 大庫=助三郎・竜助・仙 松・竜二郎)。 ※竹本座。	牛若丸(要二郎)、弁慶(義明)。
1937	昭和12	5/1~	四ツ橋文楽座	鬼一法眼三 略巻	五條橋の段(牛若丸一相生・弁慶一呂・辰・陸路・駒尾/常子=道 八・重造・友衛門・寛市・八造・鶴太郎/友駒・清若/清友/重次 郎)。	牛若丸(紋十郎)、弁慶(玉幸)。
1937	昭和12	6/8~10	東京 明 治 座	鬼一法眼三 略巻	五條橋の段(牛若丸一相生・弁慶一呂・ツレ 隅栄・さの/宮・土佐子 /相瀬・松島/土佐栄=道八・重造・喜代之助・寛若・清若・清友・ 一郎右衛門)。	牛若丸(紋十郎)、武蔵坊弁慶(玉幸)。
1938	昭和13	4/1	北陽演舞場	(鬼一法眼 三略巻)	五條橋の段(牛若丸一越名・弁慶一隅栄・ツレ 叶美=勝平・綱延・勝 芳・徳若)。 ※新義座。	
1939	昭和14	8/5~8	東京 明 治 座	鬼一法眼三 略巻	五條橋の段(牛若丸一文・弁慶一辰・隅若・松島・土佐夫・英=吉 左・喜代之助・新太郎・吉蔵・広弥・団作)。	牛若丸(紋十郎)、武蔵坊弁慶(玉幸)。
1939	昭和14	10/1~	四ツ橋文楽座	鬼一法眼三 略巻	五條橋の段(牛若丸一和泉/源・ツレ 富/千駒・津磨/宮=叶/吉 弥・友造/友平・友作/叶太郎・寛若/広二・友十郎/吉蔵・広弥/ 竜市/団作・弁慶一文・ツレ 常子/隅若・駒若/松島=吉左・団伊 三/新太郎・清友)。	牛若丸(紋十郎)、武蔵坊弁慶(玉幸)。
1941	昭和16	5/1~25	四ツ橋文楽座	鬼一法眼三 略巻	五條橋の段(牛若丸一源/文・ツレ 常子/津磨・隅若/越名・呂賀/ 織子・源/文=吉弥・友造/友平・猿二郎/叶太郎・鶴太郎/新太 郎・友花/清友・団作/仙松・吉左・弁慶一浜・ツレ 松嶋/南次=勝 平・団伊三/友太郎・友三郎/徳若)。 ※千種楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	牛若丸(栄三郎)、弁慶(玉市)。
1941	昭和16	7/26~28	東京 新橋演舞場	鬼一法眼三 略巻	五條橋の段(牛若丸一陸路改メ 七五三・千駒・隅若・越名・松島=綱 造・喜代之助・吉季・勝芳・綱延・勝之介・弁慶一津の子改メ浜・播 路=吉左・団伊三・扇之助)。 ※大好評延長興行(筋書)。	牛若丸(栄三郎)、弁慶(玉市)。
1942	昭和17	10/26・27	四ツ橋文楽座	(鬼一法眼 三略巻)	菊畑(織=団六)。 ※第四回技芸奨励会。素浄瑠璃。	
1943	昭和18	12/8~14	東京 新橋演舞場	鬼一法眼三 略巻	五條橋の段(牛若丸一浜・弁慶一司・ツレ 津磨=友衛門・団伊三・仙 三郎・広若・団作)。	牛若丸(紋司)、武蔵坊弁慶(玉徳)。

西暦	年	月	劇 場	上演外題	場 割 ・ 備 考	主な人形役割
1945	昭和20	9/19~23	朝日会館	(鬼一法眼三略巻)	五條橋の段(雛・浜・八十・松島=清二郎・新三郎・寛弘・団作)。	牛若丸(紋司)、弁慶(玉徳)。
1945	昭和20	11/22~27	神戸 八千代座	(鬼一法眼三略巻)	五條橋の段。 ※千種楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。『松竹百年史』には「28日」とある。	(不明)
1946	昭和21	3/31~ 4/14	京都 南座	(鬼一法眼三略巻)	橋弁慶の段(牛若丸—文字・ツレ 富・隅若=広助・叶太郎・一郎右衛門・仙松、弁慶—つばめ・ツレ 八十・駒尾=寛治郎・市治郎・団作)。 ※文字太夫出座せず、浜太夫代役(『文楽興行記録昭和篇』)。	牛若丸(紋司)、弁慶(玉徳)。
1947	昭和22	10/12~ 11/3	四ツ橋文楽座	鬼一法眼三略巻	五條橋の段(牛若丸—浜/越名・弁慶—古住・伊達男・織部=八造・清友・新三郎・仙松・団作)。 ※千種楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	牛若丸(紋司)、弁慶(玉徳)。
1950	昭和25	1/12~14	神戸 湊川神社 (組合派)	(鬼一法眼三略巻)	橋弁慶の段(牛若丸—七五三・弁慶—富・英・つばめ=錦糸・寛弘・一郎右衛門・仙次郎・勝太郎)。	牛若丸(紋昇)、弁慶(玉徳)。
1950	昭和25	12/2~7	東京 三越劇場 (三つ和会)	鬼一法眼三略巻	五條橋の段(牛若丸—源/七五三・弁慶—松島・ツレ 古住・呂賀・司=清二郎・勝太郎・市治郎・一郎右衛門・団作・猿二郎)。	牛若丸(紋之助)、武蔵坊弁慶(紋昇)。
1951	昭和26	5/1	彦根 真盛座 (三和会)	(鬼一法眼三略巻)	五條橋の段(牛若丸—司・弁慶—松島・古住・伊達路=吉三郎・燕三・団作・猿二郎)。	牛若丸(紋之助)、弁慶(紋昇)。
1951	昭和26	9/8~27	四ツ橋文楽座 (因会)	鬼一法眼三略巻	五條橋の段(牛若丸—津・弁慶—静・ツレ 織の/織部・相次・弘=友次郎・寛治郎・友十郎・広助・寛弘・豊助)。 ※友次郎 十五年振り出座予定のところ病気で実現せず(『文楽興行記録昭和篇』)。	弁慶(玉男)、牛若丸(玉五郎)。
1951	昭和26	11/20~22	京都 南 座 (因会)	(鬼一法眼三略巻)	五條橋の段(牛若丸—越名・弁慶—静・織の・織部・相次・弘・十九=広助・八造・友十郎・寛弘・錦糸)。	牛若丸(玉五郎)、弁慶(玉男)。
1955	昭和30	1/2~21	四ツ橋文楽座 (因会)	鬼一法眼三略巻	五條橋の段(牛若丸—綱子/津の子・弁慶—十九/弘・相子=吉三郎・清友・新三郎・団二郎・藤二郎)。	弁慶(玉男)、牛若丸(玉五郎)。
1955	昭和30	1/22~24	名古屋 御園座 (因会)	鬼一法眼三略巻	五條橋の段(牛若丸—織の・弁慶—十九・相子=吉三郎・清友・団二郎・藤二郎・喜八郎)。	牛若丸(玉五郎)、弁慶(玉男)。
1955	昭和30	3/25	新潟 新潟劇場 (因会)	鬼一法眼三略巻	五條橋の段(織部・十九・伊達路=豊助・八造・団二郎・藤二郎)。	牛若丸(玉五郎)、弁慶(玉男)。
1955	昭和30	7/26~31	東京 新橋演舞場 (因会)	鬼一法眼三略巻	五條橋の段(牛若丸—綱子・弁慶—織の・弘・十九・相子=友十郎改め 猿糸・錦糸・団二郎・藤二郎・藤之助・喜八郎)。	牛若丸(玉五郎)、武蔵坊弁慶(玉昇)。

西暦	年	月	劇 場	上演外題	場 割 ・ 備 考	主な人形役割
1955	昭和30	8/22~26	京都 南 座 〈因会〉	鬼一法眼三 略巻	五條橋の段（牛若丸—綱子・弁慶—織の・織部・十九・相子=清友・清好・団二郎・藤二郎・藤之助）。	武蔵坊弁慶（玉昇）、牛若丸（玉五郎）。
1955	昭和30	9	地方公演 （不明） 〈因会〉	（鬼一法眼 三略巻）	五條橋の段（織の・十九=錦糸・寛弘・団二郎・藤二郎）	（不明）
1956	昭和31	9/2~26	道頓堀文楽座 〈因会〉	五條橋誉鑑	武蔵坊弁慶—相生・牛若丸—南部・十九・伊達路・相子・相次=藤蔵・徳太郎・新三郎・藤二郎・藤之助・豊助）。 ※角書「鞍馬育の御曹子は源の牛若丸／書写育の荒法師は西塔の武蔵坊」。 ※五條橋ハ鬼一法眼三略巻ノ五段目 西亭補綴作曲、榎茂都陸平振付（『文楽興行記録昭和篇』）。	牛若丸（玉五郎）、弁慶（玉男）。
1956	昭和31	12/11~16	東京 東横ホール 〈因会〉	五條橋誉鑑	五條橋の段（牛若丸—南部・弁慶—静・弘・相子=吉三郎・徳太郎・団六・藤二郎・藤之助）。	牛若丸（玉五郎）、弁慶（玉男）。
1957	昭和32	12/3~15	地方公演 （関東） 〈三和会〉	（鬼一法眼 三略巻）	五條橋の段（牛若丸—小松・弁慶—常子=燕三・勝平・団作・仙二郎・友若）。	牛若丸（紋二郎）、弁慶（勤十郎）。
1957	昭和32	12/14・15	神戸 神戸新聞会館 〈三和会〉	鬼一法眼三 略巻	五條橋の段（シテ 松島・ワキ 三和・ツレ 常子=市治郎・仙次郎・友若・団作・猿二郎）。	牛若丸（紋弥）、弁慶（紋之助）。
1960	昭和35	5/27~ 6/18	地方公演 （近畿・東 海・関東） 〈三和会〉	（鬼一法眼 三略巻）	五條橋の段（牛若丸—小松・弁慶—松島=市治郎・勝平・団作・猿二郎）。	牛若丸（清十郎）、弁慶（作十郎）。
1960	昭和35	9/14~ 10/4	地方公演 （近畿・関 東） 〈三和会〉	（鬼一法眼 三略巻）	五條橋の段（牛若丸—小松・弁慶—松島=市治郎・勝平・団作・猿二郎）。 ※巡業並びに文楽教室公演（『文楽興行記録昭和篇』）。	牛若丸（清十郎）、弁慶（作十郎）。
1961	昭和36	9/28~ 10/5	地方公演 （四国） 〈因会〉	（橋弁慶）	五條橋の段（牛若丸—津の子／相子・弁慶—相子／津の子・松香=団六・団二郎・新三郎）。 ※外題は昭和三十六年度『人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	牛若丸（小玉）、弁慶（玉昇）。
1961	昭和36	12/8~14	地方公演 （九州） 〈三和会〉	（鬼一法眼 三略巻）	五條橋の段（弁慶—松島・牛若丸—小松=市治郎・勝平・団作・猿二郎）。	牛若丸（簗助）、弁慶（作十郎）。
1964	昭和39	7/3~15	朝 日 座	鬼一法眼三 略巻	五條橋の段（牛若丸—若子・弁慶—綱子・ツレ 十九・伊達路・小松=徳太郎・清治・吉兵衛・団二郎・寛弘・勝之輔）。 ※榎茂都陸平振付。	牛若丸（紋弥）、武蔵坊弁慶（勤十郎）。
1965	昭和40	5/21~23	京都 祇園会館	鬼一法眼三 略巻	五條橋の段（弁慶—伊達路・牛若丸—小春=叶太郎・団二郎・団作・勝之輔）。 ※榎茂都陸平振付。	牛若丸（紋弥）、武蔵坊弁慶（玉昇）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
1966	昭和41	9/3~18	朝日座	鬼一法眼三略巻	鞍馬山の段(小松=勝平)、播州書写山の段(中十九=燕三、切津=寛治)、清盛館兵法の段(文字=錦糸)、菊畑の段(鬼一=綱・虎蔵=綱子改め 咲・智恵内=織・皆鶴姫=南部・湛海=十九=弥七)、五条橋の段(弁慶=伊達路・牛若丸=若子・鬼次郎=松香・鬼三太=小春=徳太郎・団六・団二郎・清治・勝之輔)。 ※山口廣一改修・演出。「鞍馬山の段」野沢勝平作曲、「播州書写山の段」鶴沢燕三作曲。「同切」鶴沢寛治補曲、「清盛館兵法の段」野沢錦糸作曲、「五条橋の段」鶴沢徳太郎補曲、榎茂都陸平振付。 ※竹本綱子大夫改め初代豊竹咲大夫襲名披露。	奴虎蔵実は源牛若丸(清十郎、菊畑=紋十郎)、僧正坊・吉岡鬼一法眼(勘十郎)、鬼若丸・奴智恵内実は吉岡鬼三太・武蔵坊弁慶(玉男)、乳母飛鳥(玉五郎)、吉岡鬼次郎(作十郎)、妻お京(文雀)、平清盛(亀松)、皆鶴姫(兵法=栄三、菊畑=簗助)、吉岡鬼三太(五条橋=紋寿)。
1966	昭和41	11/13~27	東京国立劇場小劇場	鬼一法眼三略巻	鞍馬山の段(小松=勝平)、播州書写山の段(中十九=燕三、切津=寛治)、清盛館兵法の段(文字=錦糸)、菊畑の段(鬼一=綱・虎蔵=綱子大夫改め 咲・智恵内=織・皆鶴姫=南部・湛海=十九=弥七)、五条橋の段(弁慶=伊達路・牛若丸=若子・鬼次郎=松香・鬼三太=小春・広盛=相子=徳太郎・団六・団二郎・清治・勝之輔)。 ※山口廣一改修・演出。 ※竹本綱子大夫改め初代豊竹咲大夫襲名披露。 ※国立劇場開場記念公演。	源牛若丸(清十郎)、僧正坊・吉岡鬼一法眼(勘十郎)、鬼若丸・智恵内・弁慶(玉男)、乳母飛鳥(玉五郎)、吉岡鬼次郎(作十郎)、妻お京(文雀)、平清盛(亀松)、皆鶴姫(兵法=栄三、菊畑=簗助)、虎蔵(紋十郎)、鬼三太(紋寿)。
1973	昭和48	4/25~5/6	朝日座	鬼一法眼三略巻	五条橋の段(弁慶=咲・牛若丸=英・ツレ 緑・津駒・三輪=錦糸・団六・清治・清友・寛平)。	弁慶(玉昇)、牛若丸(簗助)。
1976	昭和51	8/27~9/18	地方公演(関東・東北・北陸・信越・九州)	鬼一法眼三略巻	五条橋の段(弁慶=英/松香・牛若丸=津駒/貴・ツレ 文字栄/南司=清介・弥三郎・浅造・八介)。	牛若丸(文雀)、弁慶(小玉)。
1977	昭和52	3/5~29	地方公演(関東・東北・東海・近畿・中国)	鬼一法眼三略巻	五条橋の段(牛若丸=小松/相生・弁慶=緑・ツレ 三輪/貴・津国/文字栄=団二郎・清友・弥三郎・浅造)。	牛若丸(文雀)、弁慶(作十郎)。
1978	昭和53	6/1~4	京都府立文化芸術会館	鬼一法眼三略巻	五条橋の段(弁慶=相生・牛若丸=英・ツレ 貴=団二郎・清介・錦市・錦弥)。	弁慶(作十郎)、牛若丸(簗助)。
1978	昭和53	8/19~9/2	東京国立劇場小劇場	鬼一法眼三略巻	五条橋の段(弁慶=松香・牛若丸=英・文字栄・文字登=勝司・清友・浅造・燕太郎)。	源牛若丸(一暢)、武蔵坊弁慶(玉幸)。
1978	昭和53	11/10~28	地方公演(関東・東北・中国・近畿)	鬼一法眼三略巻	五条橋の段(牛若丸=十九・弁慶=松香・ツレ 緑・文字栄=勝司・浅造・弥三郎・燕太郎)。	源牛若丸(一暢)、弁慶(玉昇)。
1979	昭和54	4/14~30	朝日座	鬼一法眼三略巻	五条橋の段(牛若丸=松香・弁慶=英・ツレ 貴・津国・文字栄・文字登=勝司・浅造・弥三郎・燕太郎・八介・錦弥)。	弁慶(小玉)、牛若丸(一暢)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
1979	昭和54	7/28~8/5	地方公演 (東北・関東)	鬼一法眼三略巻	五条橋の段(弁慶—伊達路・牛若丸—小松・緑・津国=勝平・勝司・弥三郎・八介)。 ※文化庁主催・青少年芸術劇場。	牛若丸(一暢)、弁慶(小玉)。
1979	昭和54	9/8~23	東京国立劇場小劇場	鬼一法眼三略巻	清盛館兵法の段(清盛—英・皆鶴—津駒・湛海—三輪・広盛—文字栄=勝司)、菊畑の段(織=燕三)、奥庭の段(咲=団六)。	平相国清盛(亀松)、皆鶴姫(一暢)、奴智恵内実(吉岡鬼三太(小玉)、吉岡鬼一法眼(勘十郎)、奴虎蔵実(源牛若丸(文雀))。
△	1979	昭和54	11/12~27	各中学校	(鬼一法眼三略巻) 五条橋の段(咲・他=団二郎・他)。 ※中学生のための文楽教室。 ※配役は昭和54年11月朝日座筋書に、日程は『文楽協会創立二十五周年を記念して—文楽協会』に拠る。	牛若丸(文雀)、弁慶(玉幸)。
△	1980	昭和55	11/10~26	各中学校	(鬼一法眼三略巻) 五条橋の段。 ※中学生のための文楽教室。 ※『文楽協会創立二十五周年を記念して—文楽協会』に拠る。	(不明)
1981	昭和56	10/11~25	朝日座	鬼一法眼三略巻	清盛館兵法の段(清盛—津駒・皆鶴—貴・湛海—津国・広盛—文字登=清介)、菊畑の段(織=錦糸)、奥庭の段(十九=道八)。 ※「清盛館兵法の段」野沢錦糸作曲。 ※昭和56年度文化庁芸術祭協賛・大阪文化祭参加	平相国清盛(玉松)、皆鶴姫(一暢)、奴智恵内実(八吉岡鬼三太(小玉)、吉岡鬼一法眼(勘十郎)、奴虎蔵実(源牛若丸(文雀))。
1981	昭和56	11/12~29	地方公演 (北海道・東北・関東・東海)	鬼一法眼三略巻	五条橋の段(牛若丸—相生・弁慶—松香・ツレ 緑・貴=清友・浅造・八介・団治)。	牛若丸(紋寿)、弁慶(玉幸)。
1981	昭和56	11/30	泉佐野市民会館	鬼一法眼三略巻	五条橋の段(牛若丸—相生・弁慶—松香・ツレ 緑・貴=清友・浅造・八介・団治)。 ※大阪府民劇場。	牛若丸(紋寿)、弁慶(玉幸)。
1982	昭和57	5/31	東京国立劇場小劇場	鬼一法眼三略巻	五条橋の段(牛若丸—貴・弁慶—三輪・千歳=浅造・錦弥・燕二郎)。 ※文楽若手発表会。	牛若丸(簗太郎)、弁慶(玉女)。
1983	昭和58	8/6~10	地方公演 (東北・関東)	鬼一法眼三略巻	五条橋の段(相生・津駒・津国=勝司・燕二郎・団治)。 ※文化庁主催・青少年芸術劇場。	牛若丸(紋寿)、弁慶(玉幸)。
△	1983	昭和58	11/10~22	各中学校	(鬼一法眼三略巻) 五条橋(牛若丸—小松・弁慶—英・ツレ 織美・南都=清友・八介・清二郎//八介・燕二郎・清二郎//清介・八介・清二郎)。 ※中学生のための文楽教室。 ※『文楽』第二号(昭和五十九年二月)に拠る。	牛若丸(一暢)、弁慶(文吾)。
1986	昭和61	8/1~17	国立文楽劇場	鬼一法眼三略巻	五条橋の段(牛若丸—小松・弁慶—伊達路・ツレ 津国・文字久・文字栄=叶太郎・富助・錦弥・団治・清吾)。 ※榎茂都陸平振付。 ※鶴沢叶太郎休演。	牛若丸(玉松)、弁慶(文吾)。
1986	昭和61	8/21~24	地方公演 (九州)	五條橋	(牛若丸—相生・弁慶—津国・津梅=弥三郎・錦弥・団治)。 ※角書「牛若/弁慶」。 ※文化庁主催・青少年芸術劇場。	牛若丸(一暢)、弁慶(文吾)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
1987	昭和62	12/8~20	東京 国立劇場小劇場	鬼一法眼三 略巻	清盛館兵法の段（清盛—松香・皆鶴—津駒・湛海—貴・広盛—津盛— 錦弥）、菊畑の段（前 咲=清治、後 呂=富助）、五條橋の（牛若— 相生・弁慶—英・ツレ 千歳・文字久・文字栄=清友・八介・団治・清 二郎・清吾）。 ※「清盛館兵法の段」野沢錦糸作曲。	平相国清盛（玉也）、皆鶴姫（簗太郎）、奴智 恵内実は吉岡鬼三太（文吾）、吉岡鬼一法眼 （玉幸）、奴虎蔵実は源牛若丸（一暢）、武蔵 坊弁慶（玉女）。
1991	平成3	11/10~28	国立文楽劇場	鬼一法眼三 略巻	鞍馬山の段（千歳=清二郎）、播州書写山の段（口 津国/津梅=団 治、奥 伊達=喜左衛門）、清盛館兵法の段（呂=清友）、菊畑の段 （織=清治）、五條橋の段（弁慶—緑・牛若丸—津駒・鬼次郎—三 輪・鬼三太—貴・ツレ 文字栄・呂勢・新=富助・八介・団治・浅造・ 喜一郎・団市）。 ※角書「牛若丸/弁慶」。 ※「鞍馬山の段」山口廣一脚色・三代野沢喜左衛門作曲、「播州書写 山の段 口」鶴沢燕三作曲・「同 奥」鶴沢寛治補曲、「清盛館兵法の 段」野沢錦糸作曲、「五條橋の段」二代鶴沢道八補曲・榎茂都陸平振 付。 ※平成三年度文化庁芸術祭主催・平成三年度大阪文化祭参加。 ※20日より竹本津梅大夫休演、「播州書写山の段 口」を竹本津国大夫 が代演。	奴虎蔵実は源牛若丸（簗助）、僧正坊・吉岡鬼 一法眼（玉男）、鬼若丸後に武蔵坊弁慶（文 雀）、乳母飛鳥（紋寿）、吉岡鬼次郎（玉 幸）、妻お京（一暢）、平相国清盛（作十 郎）、皆鶴姫（文昇）、奴智恵内実は吉岡鬼三 太（文吾）。
1993	平成5	7/28~ 8/18	国立文楽劇場	鬼一法眼三 略巻	五條橋の段（弁慶—松香・牛若丸—三輪・南都・新・咲甫=清友・団 治・浅造・団吾・喜一郎）。 ※榎茂都陸平振付。	牛若丸（和生）、武蔵坊弁慶（玉女）。
1993	平成5	9/4~19	東京 国立劇場小劇場	鬼一法眼三 略巻	五條橋の段（弁慶—松香・牛若丸—三輪・新・咲甫=弥三郎・八介・ 喜一郎・団吾）。 ※竹沢団吾休演、竹沢団市が代演。	牛若丸（和生）、弁慶（玉女）。
1995	平成7	6/5~24	国立文楽劇場	鬼一法眼三 略巻	【午前の部・5~14日】五條橋の段（弁慶—松香・牛若丸—呂勢・新・ 咲甫=弥三郎・清太郎・団吾・団市）。	牛若丸（文昇）、弁慶（玉幸）。
					【午後の部・5~14日】五條橋の段（弁慶—松香・牛若丸—文字久・ 文字栄・始=弥三郎・清太郎・喜一郎・清志郎）。	牛若丸（清之助）、弁慶（玉輝）。
					【午前の部・15~24日】五條橋の段（弁慶—松香・牛若丸—津国・ 文字栄・始=八介・浅造・喜一郎・清志郎）。	牛若丸（勘寿）、弁慶（文吾）。
					【午後の部・15~24日】五條橋の段（弁慶—松香・牛若丸—南都・ 新・咲甫=八介・浅造・団吾・団市）。 ※第十二回文楽鑑賞教室。	牛若丸（和生）、弁慶（玉也）。
1995	平成7	9/9~24	東京 国立劇場小劇場	鬼一法眼三 略巻	鞍馬山の段（千歳=清二郎）、播州書写山の段（口 津駒=八介、奥 伊達=団六）、清盛館兵法の段（清盛—松香・皆鶴—貴・湛海—文字 久・広盛—南都=弥三郎）、菊畑の段（切 織=清治）、五條橋の段 （弁慶—英・牛若丸—三輪・鬼次郎—呂勢・鬼三太—始・ツレ 咲甫= 清友・燕二郎・浅造・団吾・団市/清志郎）。 ※「鞍馬山の段」山口廣一脚色・三代野沢喜左衛門作曲、「播州書写 山の段 口」鶴沢燕三作曲・「同 奥」鶴沢寛治補曲、「清盛館兵法の 段」野沢錦糸作曲、「五條橋の段」二代鶴沢道八補曲。	奴虎蔵実は源牛若丸（簗助）、僧正坊・吉岡鬼 一法眼（玉男）、鬼若丸後に武蔵坊弁慶（文 雀）、乳母飛鳥（文昇）、吉岡鬼次郎（玉 幸）、妻お京（一暢）、平相国清盛（作十 郎）、皆鶴姫（紋寿）、奴智恵内実は吉岡鬼三 太（文吾）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
1997	平成9	12/4~16	東京 国立劇場小劇場	五 條 橋	【Aプロ】(弁慶—三輪・牛若丸—千歳・始・文字栄=宗助・清太郎・団吾・団市)。 【Bプロ】(弁慶—津国・牛若丸—文字久・新・咲甫=八介・清二郎・喜一朗・清志郎)。 ※第二十九回文楽鑑賞教室。	弁慶(玉輝)、牛若丸(簗二郎)。 弁慶(文司)、牛若丸(玉英)。
△ 1999	平成11	5/29・30	愛媛 内子座	(五條橋)	(牛若丸—千歳・弁慶—文字久・ツレ 相子=喜一朗・団子・団市)。 ※角書「牛若丸/弁慶」。 ※第五回内子座文楽。 ※竹本文字久大夫休演、弁慶を豊竹呂勢大夫が代演。 ※国立文楽劇場文楽公演解説書(平成十二年四月)に拠る。	牛若丸(文司)、弁慶(玉輝)。
1999	平成11	6/4~24	国立文楽劇場	五 条 橋	【午前の部・4~14日】(牛若丸—貴・弁慶—津国・ツレ 咲甫・呂茂=八介・清二郎・団吾・団市)。 【午後の部・4~14日】(牛若丸—文字久・弁慶—南都・ツレ 始・つばさ=宗助・清二郎・喜一朗・清志郎)。 【午前の部・15~24日】(牛若丸—南都・弁慶—文字久・ツレ 新・相子=宗助・清太郎・喜一朗・清志郎)。 【午後の部・15~24日】(牛若丸—貴・弁慶—津国・ツレ 文字栄・睦=八介・清太郎・団吾・団市)。 ※「鬼—法眼三略巻」より。角書「牛若丸/弁慶」。 ※第十六回文楽鑑賞教室。	牛若丸(文司)、弁慶(玉也)。 牛若丸(玉英)、弁慶(玉輝)。 牛若丸(簗二郎)、弁慶(勘緑)。 牛若丸(勘弥)、弁慶(玉志)。
1999	平成11	9/23~ 10/9	地方公演 (近畿・東 海・東北・関 東・北海道)	五 条 橋	(牛若丸—貴・弁慶—新・ツレ 相子=八介・清太郎・清志郎)。 ※角書「牛若丸/弁慶」。 ※榎茂都陸平振付。	牛若丸(文司)、弁慶(玉輝)。
△ 1999	平成11	10/11~14	地方公演 (東北)	(五條橋)	(牛若丸—貴・弁慶—新・ツレ 相子=八介・清太郎・清志郎)。 ※角書「牛若丸/弁慶」。 ※文化庁主催・移動芸術祭。 ※国立文楽劇場文楽公演解説書(平成十二年四月)に拠る。	牛若丸(文司)、弁慶(玉輝)。
2000	平成12	2/27~ 3/19	地方公演 (近畿・四 国・九州・中 国・関東・北 陸)	五 條 橋	(牛若丸—文字久・弁慶—南都/文字栄・ツレ 始・つばさ=喜左衛門・清太郎・喜一朗・団市)。 ※角書「牛若丸/弁慶」。 ※榎茂都陸平振付。	牛若丸(勘弥)、弁慶(玉女/簗太郎)。
2001	平成13	12/7~19	東京 国立劇場小劇場	五 條 橋	【A班】(弁慶—津国・牛若丸—南都・文字栄・睦=宗助・団吾・清志郎・龍串)。 【B班】(弁慶—文字久・牛若丸—呂勢・始・相子=弥三郎・喜一朗・清尪・清丈)。 ※「清丈」の「丈」は異体字。 ※第三三回文楽鑑賞教室。 ※国立劇場開場三十五周年記念公演。	弁慶(玉輝)、牛若丸(勘弥)。 弁慶(文司)、牛若丸(清三郎)。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
2002	平成14	10/29	京都 祇園甲部歌舞 練場	五 條 橋	(綱・他=清二郎)。 ※第一回竹本綱大夫の会。	
2002	平成14	11/3~25	国立文楽劇場	鬼一法眼三 略巻	清盛館兵法の段(皆鶴一貴・清盛—津国・湛海—南都・広盛—咲甫=喜左衛門)、菊畑の段(前 咲=富助、後 英=燕二郎)。 ※「清盛館兵法の段」四代野沢錦糸作曲。	平相国清盛(文司)、皆鶴姫(清之助)、奴智恵内実は吉岡鬼三太(玉女)、吉岡鬼一法眼(文吾)、奴虎蔵実は源牛若丸(文雀)。
2003	平成15	6/4~19	国立文楽劇場	五 條 橋	【午前の部・4~11日】(牛若丸—貴・弁慶—松香・咲甫・睦=弥三郎・清太郎・清志郎・寛太郎)。	牛若丸(清之助)、弁慶(玉也)。
					【午後の部・4~11日】(牛若丸—三輪・弁慶—新・文字栄・始=喜一朗・団吾・清旭・龍爾)。	牛若丸(文司)、弁慶(玉輝)。
					【午前の部・12~19日】(牛若丸—始・弁慶—南都・新・相子=弥三郎・喜一朗・清旭・龍爾)。	牛若丸(玉英)、弁慶(勘緑)。
					【午後の部・12~19日】(牛若丸—咲甫・弁慶—津国・睦・相子=団吾・清志郎・龍聿・寛太郎)。 ※角書「牛若丸/弁慶」。 ※第二〇回文楽鑑賞教室。	牛若丸(簗二郎)、弁慶(玉志)。
2004	平成16	6/29	東京 国立劇場小劇 場	五 條 橋	(綱・他=清二郎)。 ※第三回竹本綱大夫の会。	
2005	平成17	12/6~18	東京 国立劇場小劇 場	鬼一法眼三 略巻	【Aプロ】(牛若丸—貴・弁慶—津国・睦・希=弥三郎・清志郎・清丈・龍爾)。 ※「清丈」の「丈」は異体字。	牛若丸(勘弥)、弁慶(亀次)。
					【Bプロ】(牛若丸—南都・弁慶—文字栄・つばさ・靖=喜一朗・団吾・清旭・龍聿)。 ※第三七回文楽鑑賞教室。	牛若丸(清三郎)、弁慶(勘緑)。
2006	平成18	6/7~22	国立文楽劇場	五 條 橋	【午前の部・7~14日】(牛若—咲甫・弁慶—津国・つばさ・呂茂・靖=団吾・清旭・龍聿・龍爾)。	牛若丸(勘市)、弁慶(玉志)。
					【午後の部・7~14日】(牛若—始・弁慶—相子・睦・芳穂・希=喜一朗・清丈・龍爾・寛太郎)。 ※「清丈」の「丈」、「芳穂」の「芳」は異体字。	牛若丸(玉佳)、弁慶(勘緑)。
					【午前の部・15~22日】(牛若—睦・弁慶—文字栄・相子・芳穂・希=清志郎・清丈・龍聿・龍爾)。 ※「清丈」の「丈」、「芳穂」の「芳」は異体字。	牛若丸(一輔)、弁慶(亀次)。
					【午後の部・15~22日】(牛若—貴・弁慶—新・つばさ・呂茂・靖=弥三郎・団吾・龍聿・清丈・寛太郎)。 ※「清丈」の「丈」は異体字。 ※第二三回文楽鑑賞教室。	牛若丸(紋臣)、弁慶(幸助)。

西暦	年	月	劇 場	上演外題	場 割 ・ 備 考	主な人形役割
2007	平成19	8/14	奈良 ならまちセン ター市民ホー ル	鬼一法眼三 略巻	五條橋。 ※文楽若手自主公演・第二回ならまち文楽。出演＝相子・靖、清丈・ 清公、勘市・玉佳・一輔・簗紫郎・玉翔・玉誉・簗次。 ※「清丈」の「丈」は異体字。 ※公演チラシに拠る。	(不明)
2008	平成20	6/4～19	国立文楽劇場	五 條 橋	【午前の部・4～11日】(牛若丸—睦・弁慶—始・相子・呂茂・靖＝清 志郎・清丈・寛太郎・清公)。 ※「清丈」の「丈」は異体字。	牛若丸(文弥)、弁慶(亀次)。
					【午後の部・4～11日】(牛若丸—つばさ・弁慶—津国・芳穂・希＝清 旭・龍爾・寛太郎・清公)。 ※「芳穂」の「芳」は異体字。	牛若丸(紋秀)、弁慶(玉志)。
					【午前の部・12～19日】(牛若丸—相子・弁慶—文字栄・芳穂・靖＝ 清志郎・清丈・龍爾・清公)。 ※「芳穂」の「芳」は異体字。	牛若丸(玉勢)、弁慶(勘緑)。
					【午後の部・12～19日】(牛若丸—睦・弁慶—つばさ・呂茂・希＝団 吾・清旭・寛太郎・清公)。 ※第二五回文楽鑑賞教室。	牛若丸(簗紫郎)、弁慶(幸助)。
2009	平成21	7/18～8/5	国立文楽劇場	五 条 橋	(牛若—三輪・弁慶—津国・始・芳穂・希＝清友・清旭・龍爾・清 公・錦吾)。 ※「芳穂」の「芳」は異体字。 ※国立文楽劇場開場25周年記念。夏休み文楽特別公演。親子劇場。 ※豊竹咲寿大夫休演。	牛若(清三郎)、弁慶(玉志)。

平成21年9月以降の国立劇場・国立文楽劇場での公演記録

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
2009	平成21	9/5～23	国立劇場小劇場	鬼一法眼三略巻	播州書写山の段（口 睦（5～14）／つばさ（15～23）＝団吾、奥 津駒＝寛治）、清盛館兵法の段（清盛＝松香・皆鶴＝南都・湛海＝芳穂・広盛＝希（5～14）／靖（15～23）＝喜＝朗）、菊畑の段（切 咲＝燕三）、五条橋の段（牛若丸＝三輪・弁慶＝津国・鬼次郎＝文字栄・鬼三太＝始＝ツレ 呂茂・咲寿＝富助・団吾・寛太郎・清公・錦吾）。 ※「芳穂」の「芳」は異体字。 ※豊竹咲寿太夫休演。	奴虎蔵実は源牛若丸（和生）、吉岡鬼一法眼（玉女）、鬼若丸後に武蔵坊弁慶（玉也）、乳母飛鳥（玉英／簗二郎）、吉岡鬼次郎（玉志）、妻お京（勘弥）、平相国清盛（玉輝）、皆鶴姫（清十郎）、奴智恵内実は吉岡鬼三太（文司）。 ※吉田玉英休演・吉田簗二郎代演。
2010	平成22	6/26	国立文楽劇場	鬼一法眼三略巻	菊畑の段（咲＝燕三）。 ※第13回文楽素浄瑠璃の会（文楽劇場第32回邦楽公演）	
2011	平成23	6/10～23	国立文楽劇場	牛若丸 弁慶 五条橋	【10～12・14～16日：10時30分 13日：2時】牛若＝芳穂・弁慶＝相子・文字栄・靖・咲寿＝団吾・清道・清文・清公。 ※「清文」の「文」、「芳穂」の「芳」は異体字。 ※第28回文楽鑑賞教室 ※大阪文化祭参加	牛若丸（一輔）、弁慶（幸助）。
					【10～12・14～16日：2時】牛若＝睦・弁慶＝靖・希・小住＝喜＝朗・龍爾・寛太郎・錦吾。	牛若丸（清五郎）、弁慶（簗紫郎）。
					【17～21・23日：10時30分 22日：2時】牛若＝咲甫・弁慶＝芳穂・靖・咲寿＝清志郎・龍爾・寛太郎・錦吾。 ※「芳穂」の「芳」は異体字。	牛若丸（紋臣）、弁慶（玉勢）。
					【17～21・23日：2時】牛若＝希・弁慶＝つばさ・咲寿・小住＝清道・清文・寛太郎・清公。 ※「清文」の「文」は異体字。	牛若丸（紋秀）、弁慶（玉佳）。
2011	平成23	10/29～11/20	国立文楽劇場	鬼一法眼三略巻	鞍馬山の段（僧正坊＝津国・牛若丸＝睦＝清志郎・清道）、播州書写山の段（口 相子＝喜＝朗、奥 千歳＝富助）、清盛館の段（清盛＝松香・皆鶴姫＝文字久・湛海＝南都・広盛＝文字栄＝清友）、菊畑の段（切 咲＝燕三）、五条橋の段（牛若丸＝呂勢・弁慶＝咲甫・鬼次郎＝つばさ・鬼三太＝靖・ツレ 亘＝清治・宗助・清道・龍爾・清公）。 ※鶴澤清志郎休演・鶴澤清道代演。 ※平成23年度（第66回）文化庁芸術祭主催 ※国立劇場開場四十五周年記念 ※関西元氣文化圏共催事業	奴虎蔵実は源牛若丸（和生）、僧正坊・吉岡鬼一法眼（玉女）、鬼若丸後に武蔵坊弁慶（勘十郎）、乳母飛鳥（勘寿）、吉岡鬼次郎（文司）、妻お京（勘弥）、平相国清盛（玉輝）、皆鶴姫（清十郎）、奴智恵内実は吉岡鬼三太（玉也）。
2015	平成27	5/9～25	国立劇場小劇場	五 條 橋	牛若丸＝睦・弁慶＝始・小住・文字栄＝喜＝朗・龍爾・清公・清允。	牛若丸（紋臣）、弁慶（勘市）。

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
2015	平成27	6/5~18	国立文楽劇場	牛若丸 弁慶 五条橋	【5~7日、9~11日は10時30分、8日は2時】牛若丸—芳穂・弁慶—南都・靖・始=団吾・龍爾・清公・清允。 ※「芳穂」の「芳」は異体字。 ※第32回文楽鑑賞教室	牛若丸（一輔）、弁慶（幸助）。
					【5~7日、9~11日2時】牛若丸—睦・弁慶—希・咲寿・小住=清旭・寛太郎・錦吾・燕二郎。	牛若丸（勘市）・弁慶（簗紫郎）。
					【12~16日、18日は10時30分、17日は2時】牛若丸—芳穂・弁慶—始・希・南都=清丈・寛太郎・錦吾・燕二郎。 ※「清丈」の「丈」、「芳穂」の「芳」は異体字。	牛若丸（清五郎）、弁慶（玉佳）。
					【12~16日、18日2時】牛若丸—靖・弁慶—始・咲寿・亘=清志郎・龍爾・清公・清允。	牛若丸（紋秀）、弁慶（文哉）。
2015	平成27	6/20~21	国立文楽劇場	五 条 橋	牛若丸—咲寿・弁慶—亘・希・靖=清公・錦吾・燕二郎・清允。 ※国立文楽劇場第15回文楽既成者研修発表会。	牛若丸（勘次郎）、弁慶（簗次）。
2015	平成27	6/27~28	国立劇場小劇場	五 条 橋	牛若丸—咲寿・弁慶—亘・希・靖=清公・錦吾・燕二郎・清允。 ※国立劇場第三回文楽既成者研修発表会。	牛若丸（勘次郎）、弁慶（簗次）。
2016	平成28	7/23~8/9	国立文楽劇場	五 条 橋	牛若丸—睦・弁慶—始・南都・咲寿・文字栄=喜一朗・清旭・錦吾・清允・燕二郎。 ※牛若丸—豊竹睦太夫8日休演・豊竹始太夫8日代演。弁慶—豊竹始太夫8日休演・竹本南都太夫8日代演。	牛若丸（簗紫郎）、弁慶（玉勢）。
2019	令和1	6/7~20	国立文楽劇場	五 条 橋	【7~9日、11~13日 10時30分、10日2時】牛若丸—南都・弁慶—小住・亘=清志郎・友之助・錦吾・燕二郎。 ※第36回文楽鑑賞教室 ※国立文楽劇場開場35周年記念	牛若丸（清五郎）、弁慶（勘市）。
					【7~9日、11~13日2時】牛若丸—睦・弁慶—靖・碩=清旭・寛太郎・清公・清允。	牛若丸（簗紫郎）、弁慶（玉勢）。
					【14~17、19~20日 10時30分、18日2時】牛若丸—希・弁慶—碩・小住=清丈・友之助・清公・清允。 ※「清丈」の「丈」は異体字。	牛若丸（紋吉）、弁慶（玉翔）。
					【14、16~17、19~20日2時】牛若丸—芳穂・弁慶—咲寿・碩=勝平・寛太郎・錦吾・燕二郎。 ※「芳穂」の「芳」は異体字。	牛若丸（玉誉）、弁慶（簗太郎）。
2021	令和3	2/6~22	国立劇場小劇場	五 条 橋	牛若丸—咲寿・弁慶—津国・碩・文字栄=清志郎・寛太郎・清公・清方。 ※鶴澤清治文化功労者顕彰記念	牛若丸（玉勢）、弁慶（文哉）。

西暦	年	月	劇 場	上演外題	場 割 ・ 備 考	主な人形役割
2021	令和3	6/3~17	国立文楽劇場	五 条 橋	<p>【3~9日 10時30分】牛若丸—芳穂・弁慶—南都・亘・碩=清丈・友之助・清公・燕二郎・清方。 ※「清丈」の「丈」、「芳穂」の「芳」は異体字。 ※第38回文楽鑑賞教室 ※国の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の延長及び大阪府の要請等を受け、5・6・12日の公演中止 ※ [6日 11時] 大人のための文楽入門／Discover BUNRAKUは公演中止。</p>	牛若丸（簗紫郎）、弁慶（文哉）。 ※吉田簗紫郎3~7日休演。吉田簗太郎代演。
					<p>【3~9日 2時】牛若丸—咲寿・弁慶—靖・小住・碩=清志郎・清燿・寛太郎・錦吾・清允。 ※ [6日 2時30分] 大人のための文楽入門／Discover BUNRAKUは公演中止。</p>	牛若丸（紋吉）、弁慶（玉勢）。
					<p>【10~12日、14~17日 10時30分】牛若丸—睦・弁慶—亘・咲寿・碩=勝平・寛太郎・清公・燕二郎・清方。</p>	牛若丸（玉誉）、弁慶（玉翔）。
					<p>【10~12日、14~17日 2時】牛若丸—希・弁慶—咲寿・小住・碩=清燿・清丈・友之助・錦吾・清允。 ※「清丈」の「丈」は異体字。</p>	牛若丸（勘次郎）、弁慶（簗太郎）。